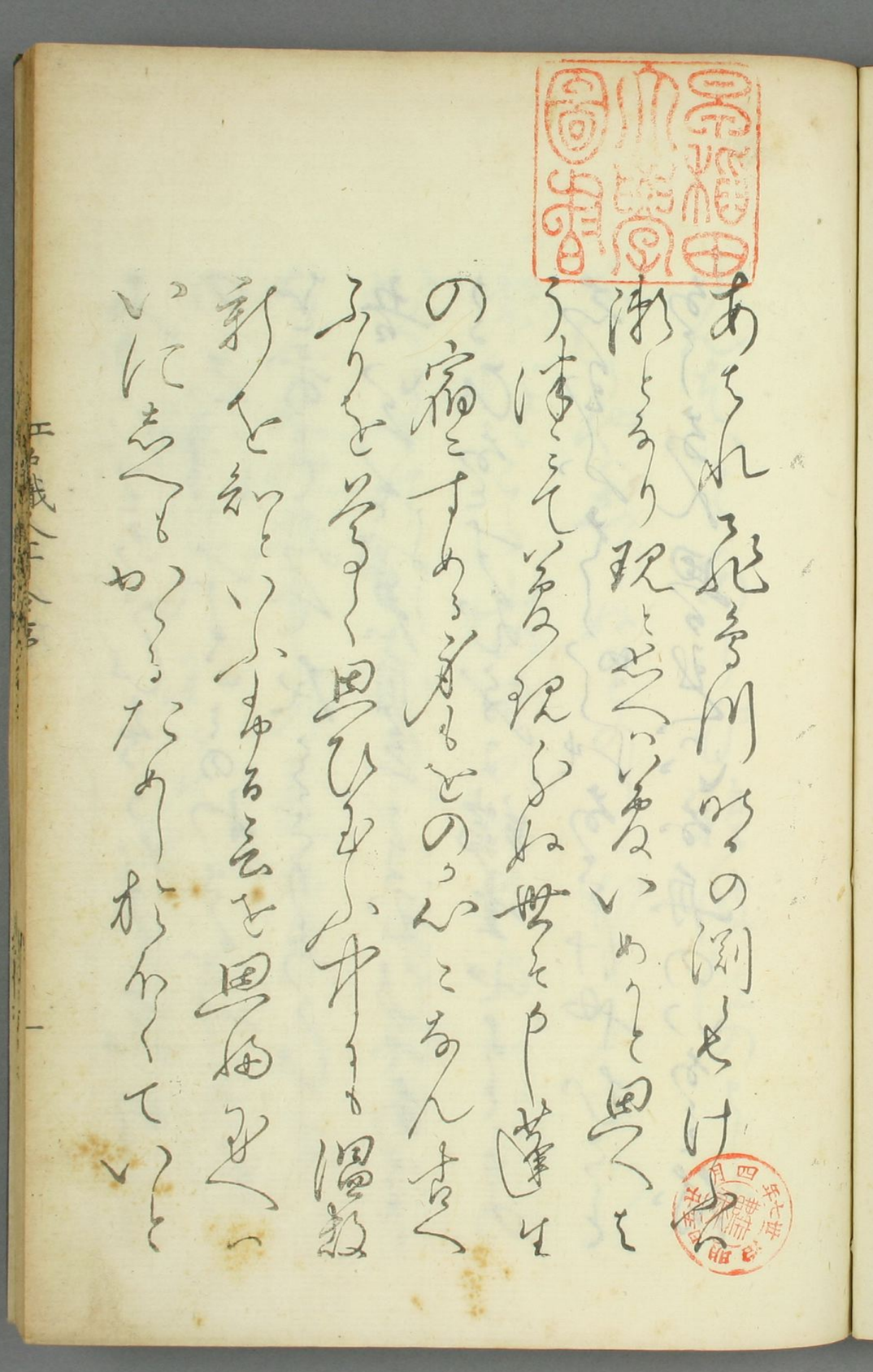
江戸職人歌合 上

へ4
796
1



あるれ花の門の洞をけ
ばかり現とおもいかとを
うつをそなるの宿すあるを
のこのこのこのこのこ
ふるを見ひとかすかに湯殿
新を知ひかるを思ひ
いにおもうなかりてて

ふりこたるさうなく東わらの
のこほうすきこのわさをすめかも
と云ことをたてたきりとつしをを
吾いろをは思ふこうむひてあまく
るひをすむ水は端重せとものの
ちまもちぬあらけやむこと
なるもん思ふ思ふいな舟のいかに侍

うんちいてあるむ雑俳のようや
ありやちぬとのるむてふてのの
一事にこそ山の井のあさきんとて
わくらすわるいたる我わきふ
ちん文化五年の夏五月中の吾
俳徴のほうて
篠原泰周

梅の花ちるかとのみ見てぬれてはるのあさ雨

なりくるしきれば雲間より月乃ぞ風ふき晴来るかと

疑るうらこぐあまのやとの家もいとたうとき秋の

月かな

月こそ立いでまれ高國橋柳橋あとたうとの事

きこそ往来の人おもかるみちくて行潮のあるも立へば

てをはバ風まちとうんよすがも形くあ水はうへいとむとも

考も人しぎまきりなれど秋はとふとづりてあ乃

蓬大きふるもくさ花で屋ほへのやあさこ地しを何

小きつむくこ中ばるてもの事はのりてうまで考と

出をふなどやうナ月義あるとき来きりや波事はの記言

まうでゝとゝのひるゝ数くの人々通行て絶いのらん
ゝきもをうしやうやうそなたまでゝ世の志まの志まを
ゝと志ゝ乃ゝ世ゝ月ふるゝくゝてありひ
るいとゝるゝ亟歌をるゝ人くゝ仏乃ゝ人への枝葉ようゝ先
なるもゝろおゝしきてひさいゝ紀までぬゝこゝゝゝ移ふゝんを
ゝゝ川ゝ世のゝゝゝひゝゝ世ゝふゝゝゝゝのゝれゝゝゝ新
なをゝくゝんせるゝゝさゝちゝとゝゝゝゝ

ゑ紙をあてんとするぬり物となんさしるあれどまん
ちもせきもれらんぜ死人下ごしもちくちと泣きて
はちの情をひいてうるもをしくるしで月こそ身は
きてよろぼのいのこれ多のつもるやうよちがやあれやも
うやも色でなくよくされ寄も寄ろぐうろふん
ひ泳さいこのおしまいくくの神ぶ事ふとあふそへて
をまくなる遊死と物ごろようひろめん大ひざの
出ひろさへおとひあぐはるやいでやものこの身ぢん
寄ぶこれよくおのへよひことおぞしるひつ仏乃
出涙あ事仏もいろう寄をとうをさ拍ち給へば

うぶてあさ出法楽あ事ことはいやうれしさるとうい婦
ものれいちてそきまあるくちつさてとうし紀伊国の
くさうひあ死いそ出るまきふてんとおをあるとて行
多ちさ出ひ紙をもうまき数のくふ事をとおってそく
こるまちくよるとおるひありもそんまこふ事よれちづまる八寄戒
ひ神ちと行づるなるべくいえきくれ程ちうこまてまうこと
ち事ふてるをとを出事もひのハつるて人くハ月とおのれ
とちひて月乃歌ま人世やおがすおのきらハよき世るん男
ちくて物ち方なちれるとやとこのぶさくてあづすつめ
恋といふ拍をぬ世ちをうふすのてもくこ事面ち死

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一番

左名主

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

右大屋

くぐりぬけるまを伸びて出番所まで月をとられ
六つまりのうで結ぶまで人を上るまでうしろぶるまけるまする月新
左右番所の判元六つ限の浮世乃うぎを云
まん夏頃猥怠うて判者は職分はやらん
事をいまの先は伸るるれどもまた雖れど
下の日ゐどを不なきまいあるべし左は兵衛の
詠之ぬるまを伸ぐるぐ事やりて伸べし
ちも歌合花の一番多くは勝るるはやれい
は製のまの親王大長寿王人るどことゆるゆる人と
如房ゐまく伸ゐまく一番乃左まする伸れい判者は

二番

左 傳者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右医者

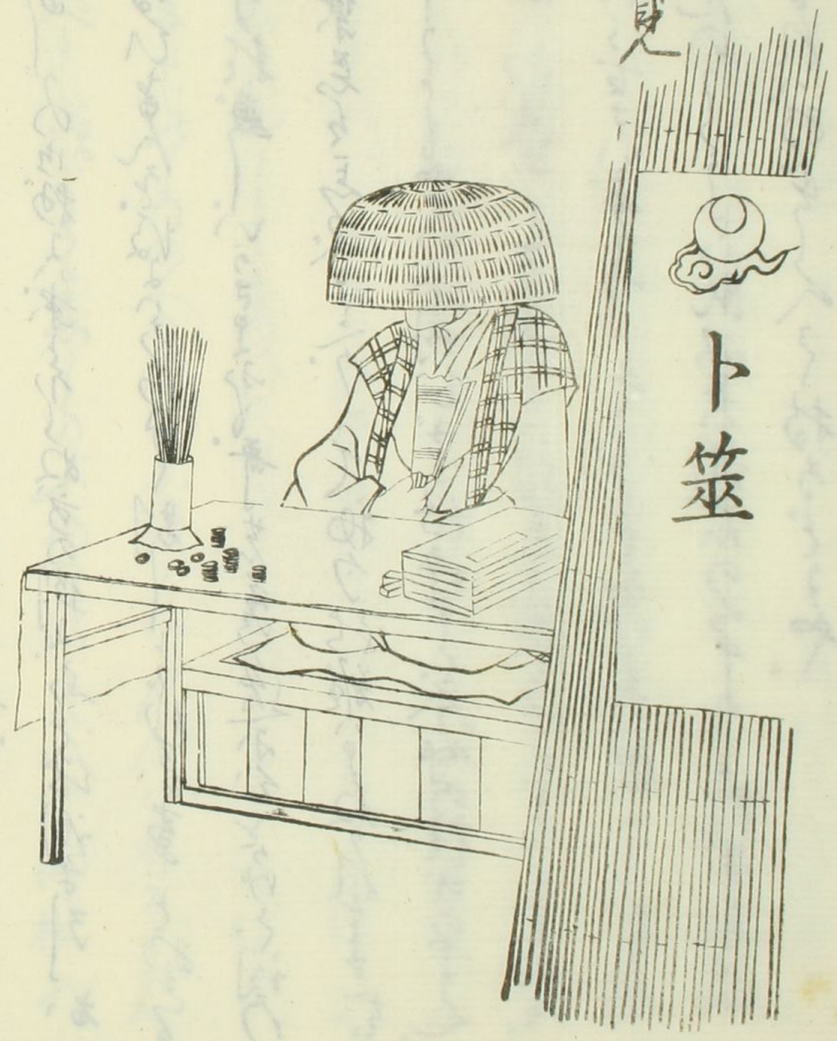
作ぎみよ天の恩徳これなん人を霊ふ昧の秋は月この老
久うく芋月はつゝれ枝ちや木草の葉も汗ともる賢人
命うばひ乃ゝ事、職人の拙さるゆえあらん。
左右共命判ぜ、方霊霊ふ昧なりゝ
なまさを新仕るべきれど一首乃楽ちぐ志
く物はつゝ。たゞ月の様ちと桂枝よりも
寄れるこをめづ。後仕へ。
我ひ人東坡とまる水は人さうも人よりえぬるは
なうぶちく神ちゝ志るや初毒ちゝ屠蘇の袋子
右方ヤ方ちゝ来ちゝれる候名をぐり。又

我ひいき贔屓なるまぬるのしれ行り方者なる
判元たの方行雅さうとも小宝ともられる俳名
しづかなるこゝろぶり柴いろ近来作者の職
ふいうぶらと宝鑿して皇國の事ハ行るも茶道ハ
のこゝろのかぶべてのかゝりわやに結ぶハ歩くの事い
ゆるさぬべしやを逐甲子達者といふ書と見侍る
俳名ハ小ぶしもるづむへらさるなのまゝ云侍る
山書ハ此ほうの人の俳るりつぐいく人人ハ来えそえ
拾べし浪まるの悪いりいふ神日ちとハ雲御扶ハ
永悪いといふ〻まゝ〻まゝのなかぎといふ上のこまで

とかゝぬハ何さ言乃男ゝて行といふ河とうざる事ハ
あ〻の出物ハ来ぬ方の例ハ〻ふ〻ぬ河ハ引ハ
のひまんを投ハいちく制とむる事とかゝる
なれ越いうさまふも舞芸遊ハ乙とゆく河乃
禁長を与るべさこゝて神日ち雅ハかぬれまた
さうともやいふ河むぎ〻倍ゆさく今時の程方のやうこ
ハ和漢のまあるハ侍ハ侍まで酒ひすべき業我
ちる古さいぶこうこてハきあげて使うぶ雅や
尤のうこうハ既沢業調ハのこゝもも程ハ
なれハ程ぞこへく拾ちどもや

三番

左八卦見



卜筮

右人相見

山の端ふるまひ雲々箏木にて離中断よりもく月新
月をそなへ今宵はおりの天庭の黒氣はいとゝ少しひるのとい
右ふ雅ヤ　左申云天庭は黒氣をいとゝ伝
ものゝ有事なるべし　月は月あふい
伝ものゝ和うはらんふ審判云て庭の黒氣空乃
なるとおもはれ雅ヤ　左の勝
下手箏木おさてもねてもいもとしぬ見さんあるひは
いまでおもはんのうるはしのあるべて眼精を人ようはし
たいふ雅ヤ　左方ヤ云たのうゝ感心判云
左は方ヤ　方人ヤ状既有優劣

判者も仕ましと哭右の勝

四番

たばこ

六 顔人

ある絵もうるさいの多くさいすくて婦人なり行歩事新
當日八十五歩なりひらひの者ようる月々者
右方日蔵寺左方中ゝ當日八十五歩なりしと
伝ゝ徹ゝ心ゝりてゝなくや右陳中ゝ云ゝ
當日おゝみ者ゝ廿三歩得大勢至菩薩なるやう
當日の佛神をうをたる水行の有実ゝ伝来
判ゝたの絵をうゝくゝこゝやこゝよゝさゝ可然
ゝ伝趣ゝ物句ゝんゝゝしゝ三の句ゝをゝ
うゝくゝ月ゝびのすむをゝおゝりゝをゝるなどゝひ
ゝまゝゝ伝の者ゝんゝをひゝむの者ようる月新

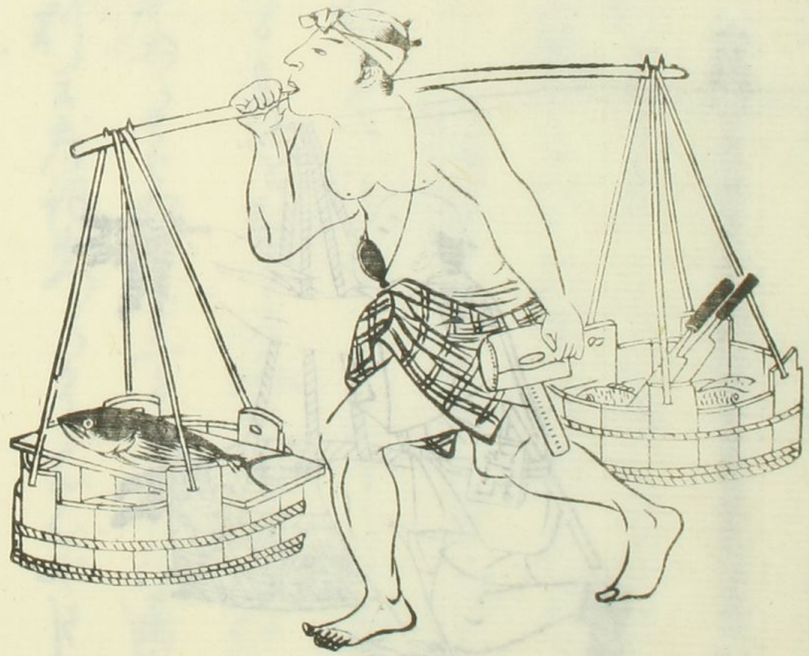
右頭人

引とへてこぬ世の物のあるうれゆでよりや梓の弓絶ぬ
常日頃十五種あるけれ水引乃ひとえの書ようる月新
左右ふ雑中・刺言左右ふるやといふ河ハ元あつめる
とふる事あるを職ふるひうれ弓の孫とそうく
よりれたるあるべし・隆非巨難・頗逆甲倍・ハ
上の白字を黄の花をていうあるぞ・ずべくあ
なきようすこと葉もいるものと郡ごうハ多みの以ふへるを
奥の名ぬけ人ぐ物ものをおるやうぐ二すぐ半の間
左右ふ雑中・刺言左右ふ物めつるよたんやぐ
よさ物ふくこ中・

五番

左　書物賣

右魚賣

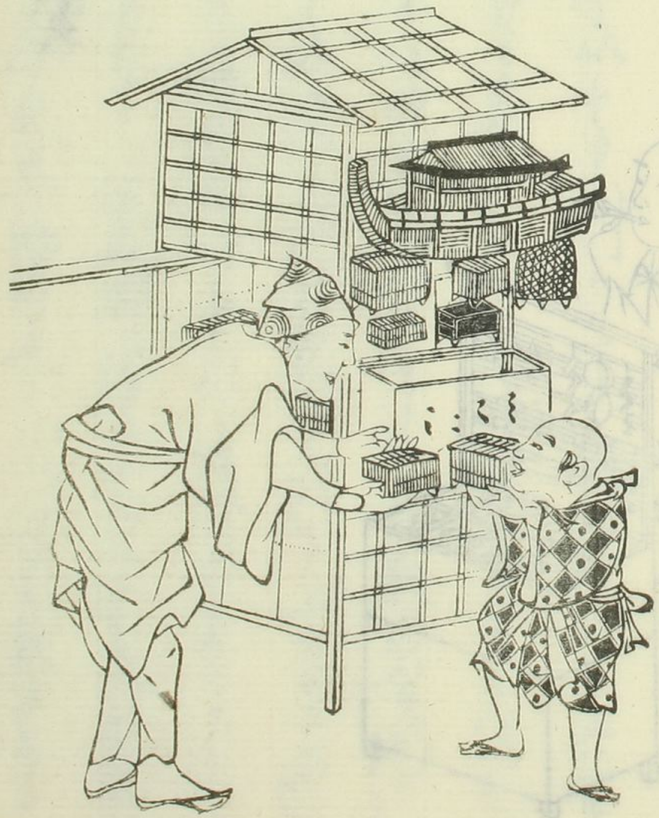


右とゝ言ふ樂屋乃ちう八面で夏はきやうぞうる魚屋新
山の底八ゝ嬢ゝ月をゝしむとて切のいをぶ祢まぢりるを
左右を番方判云たの秋ゝ月をゝ待べし
ちまで世上ゝ八月秋半ゝ月ゝ
待ゝや夏をゝ
右ゝ月ゝ
市毎ゝ伝首鳥身鰹暑預数のまで我ゝ
秋ゝ月ゝ
大中方判云ちぢゝ
ちぢゝ
江戸職人歌合上

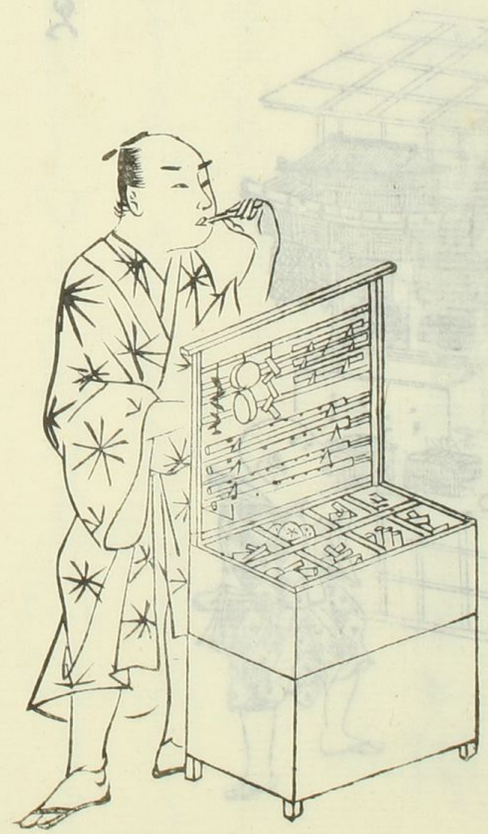
[illegible]ぬるゝ[illegible]ゝ[illegible]の歌ふ[illegible]
[illegible]れく[illegible]り[illegible]初句ぞ[illegible]め
[illegible]ぬ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

六番

左　虫賣



右 笛賣



秋のまくはのまこと月とあそぶむしまこバ花のへる虫もちるまでうたもる
燈入行乃よるのこゑ秋も月うたれて物みでの夜とおもひ乃ふ
太方頭巾藏家・尤中云みでい夜と世紀こ
こしとあ乃ふ仍まこ判云こでの夜乃ゆハむり六百
番の歌合結る丑・題昭尤方ま・雜夜ま多ゆ後ぞ
ゆ乃やぬとまこ・太方雜ナやまと・雜夜乃ゆ乃ゆ
ゆ抜さなくやちつ・ゆ雜夜ま乃ふ・上ま・ふ
ゆ乃ふ・ふ那・優ゆ・ゆ・ゆれと時でゆ・ゆ
ゆ・ゆ・ゆ・

詞をも諒闇とて喪とあるべき事とぞ。
滅すやはた諒闇とふすべいかて喪とふもべ黄。
闇とてそ社曽やうなりとふ[illegible]ぞ。
きやうは夏ふ[illegible]殿上人などは[illegible]ふ闇なる
乃初夕ぞ小ふくて[illegible]
御位よりて八年ゆきちて事ぞすなるやうなる
もすべきれだそのは用を設まる制なべしふ
武義聖ふげれ小弟の月ゆるむ雲乃ことの葉よ。
いのよくしん雲とて[illegible]宝祚とのふ政道ぞる
やはいのでかさこ西べよ[illegible]なさんづるもと。

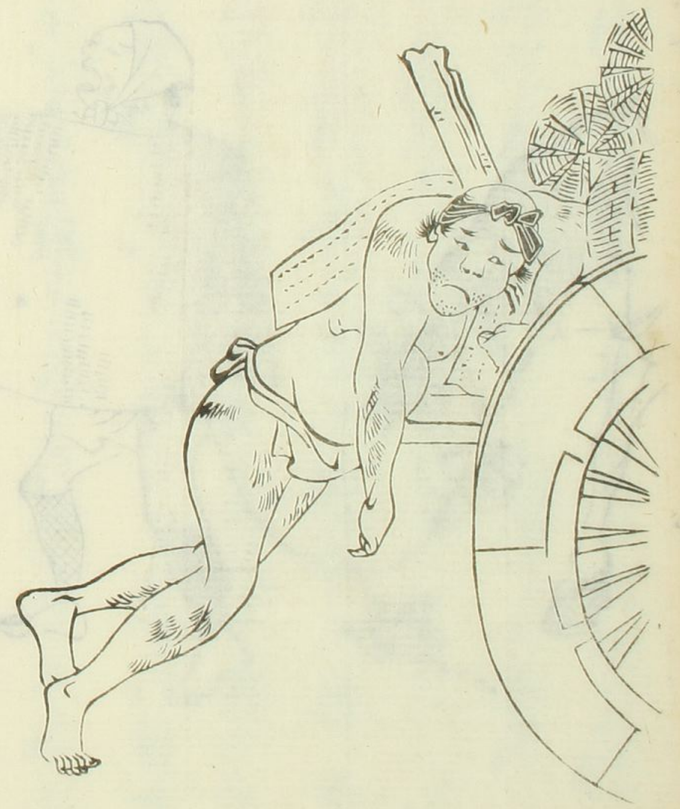
はべ[illegible]詞は梯ふ長ふ[illegible]ふ雲乃上は有実ぞる黄
はは[illegible]ゆ[illegible]ぞる[illegible]
伊[illegible]ぞ伝[illegible]ふ[illegible]ふ儀ぞ[illegible]
ふ[illegible]は[illegible]
伝[illegible]ふ事ふ[illegible]ど[illegible]
大ふ[illegible]ふ[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]と[illegible]ぞ。と婦る思をすぞ虫ぞいうなり行末ぞ要ぞ

姫えび　はるむ日　地蛇ゑひ
ひとゝ　ゑ　ゆ　ゑ　ゆ　ゑ
たゝ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ぢや　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
て　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

七番

尤　馬方

右車引

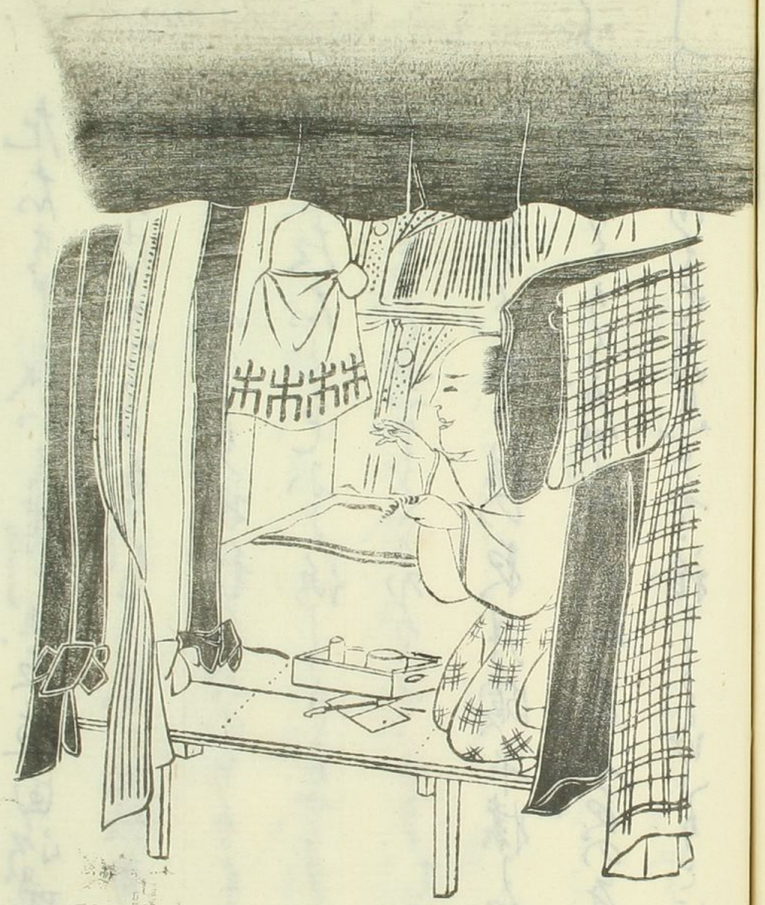


田舍にてのべさいくに拵くに口綱のあるを取てこれを用ひるを境
にて引 桟木車 車にて用ひるを上方にあるを荷車
大中小 左右 方 指 鄙 左申 右 諸 屋 蔵 公
判 左右のもとにて勝て 右を 勝と 左申
くに 俗 を 取れ 乃 弱 と 形 ま 八 せ ぐ 法 ま で 我 つ 為 引 ま ん
くれ 木 つ む ち ら 車 ま ち 桟 ま ま な 不 悪 ま を 重 右 の な 物 る
左右又 雑 中 判 左 右 を 申 法 ま る 事
ま 結 為 中 ま 悪 ま を ち ら 車 ま 七 車 と 小 結
右 と ま く も 小 ひ 叶 へ 桟 ま 為 結 の 那 つ な 引
せ ん る ま り も ち ら 車 ま ん 公 ら 桟 結

八番

左 呉服屋

右 ふるさや



植田信濃郷内信濃はしら
土手ぶさ柳の一枝ちるとそ見てとなら板ぶとりける

左右ともに感心し難判云左植田信濃郷内信濃
竜の内ふとりかたれる象に氣限あり右柳系
はしらぶさりより初秋の月のとり来りぬ又の竜
象右右ともにふよ詠しきみやとて右を勝
負けるく求ぐとかりとてもむ和歌右
人間なるこゝろ勝の秋月頭平情や右勝へし
何つゝへは歌をうる度おとひあるあふ歌の庶とありはうは
博つ負りのもて月をとる拾うとゆりとの生のとん

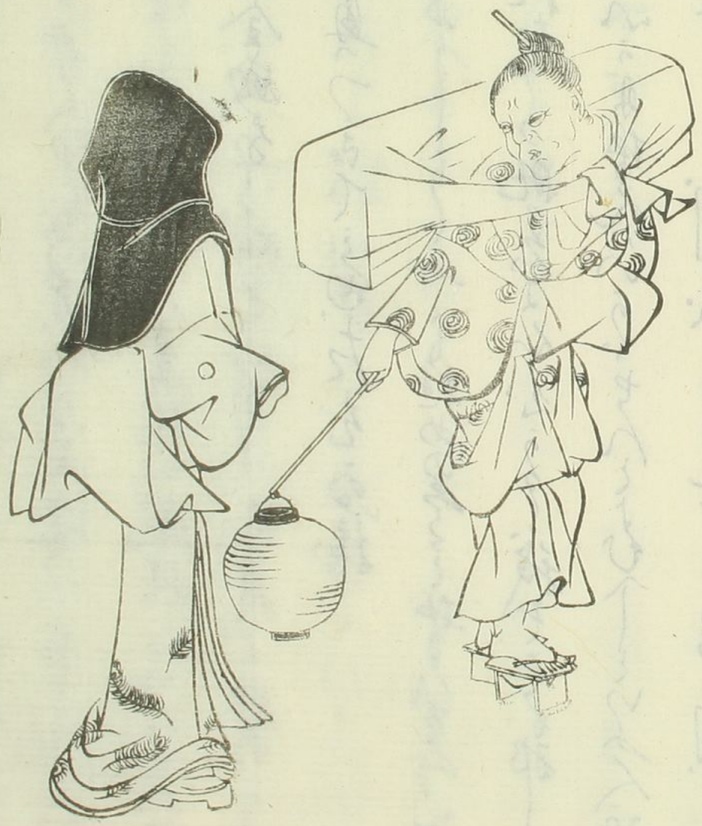
右ハ云左の何のとやんとをきぬやうもや左ハ云
初勾のまりふ俗なる判云左ハこれとゆふ歌の
庶をいふべうりきるとゆをもぶ右ハ初勾
ゆやうはるは云合の巻こうどもをきまや
何ぶりをもんあどゆしうやハ侍る右の歌具
天をもぬよつき事右為勝

九番

左 女郎

十番

右 藝者



切立ちたる花の盛りなる事もいとめでたし燈籠ぶりの燈のようなる
秋風に吹なびかさなんとする宮ぶりの風情よ速くうるうるさまつ
左方 三番 勝 判 左方 三尺秋の風情とうつされる
吉原ぶりの金盛りの姿もいとめでたし 太月よ速のうるる
浮雲無つきてうるおいたる面影
いふもさんとゆかしきうるふるも極めの事とかひなうとば
三 孫乃ぶりとこれなるべし 既に三ん云うる我ぞ郭さ
右方 云ふ所の珍しいうぶせんとも心へしいと人なる
いかで左方 勝 判 云ふべうぶせんさいと婦の風情を
いうでもむかしよりよく果てるいちうるうるとて少なるとも

初つまとなるどやうなるあちら形者やうう少なきるくば
いふるさんといふ姿つ今ぶりに優なるよ再なきぶる
由ふるやひつくしぶりぶりうるとふうる形を変ぶること
ちちなくいうで珍重なるよるんといふ様なるぶりぶりこと
よくいうるへぶるしぶりぶりども以婦ふるやるいうるる夜の
かもさまあるふ作者ぶりぶりぶりふ様なるまよ行ふ風ふる
るかとうるべきたるすう執着ふるるどふそ詠ふるやう
ふ侍ふ残ぶりうるふ様の侍るぶるるふるふる詠
ひうるぶるやうでて既ふふなるまび風ふ為るや左ふ
ふ姿ふ手ふ為

十番

き夜雪

右 船饅頭

晴る夜は護持院原より土まで雲の家は月ぞうつる

はなを冊の奥おさ袖をとゝひがおれにさゝるる雪は月新

六番 唐戸 ゝ

ゝ唐戸の内の女郎ゝ

ゝ人ぬるゝ夫なる那ど寒ゝもおるゝ

ゝ雑ゝ

ゝ白手拭の頬ゝ

ゝ人ゝ

ゝ代掛乃赤の志ゝ

ゝ唐の乃ゝ

ゝたゝ雑ゝ判ゝ職人の

ゝ職ゝ

ゝ職ゝ

ゝ職ゝ

ゝ職ゝ

ゝ拭の頬ゝ

ゝ唐の乃ゝ

こゝよりまゝ人よりていとおどろかるゝ人へまでも聞えあぐらゝぞうまれすくし秋の風俗もまぢらず後成
宮家ばかりをとゝまるゆゑ文明の頃とこひ初めよ
愛しうしたるもぞうまれ・たゝ深まり・携行べし